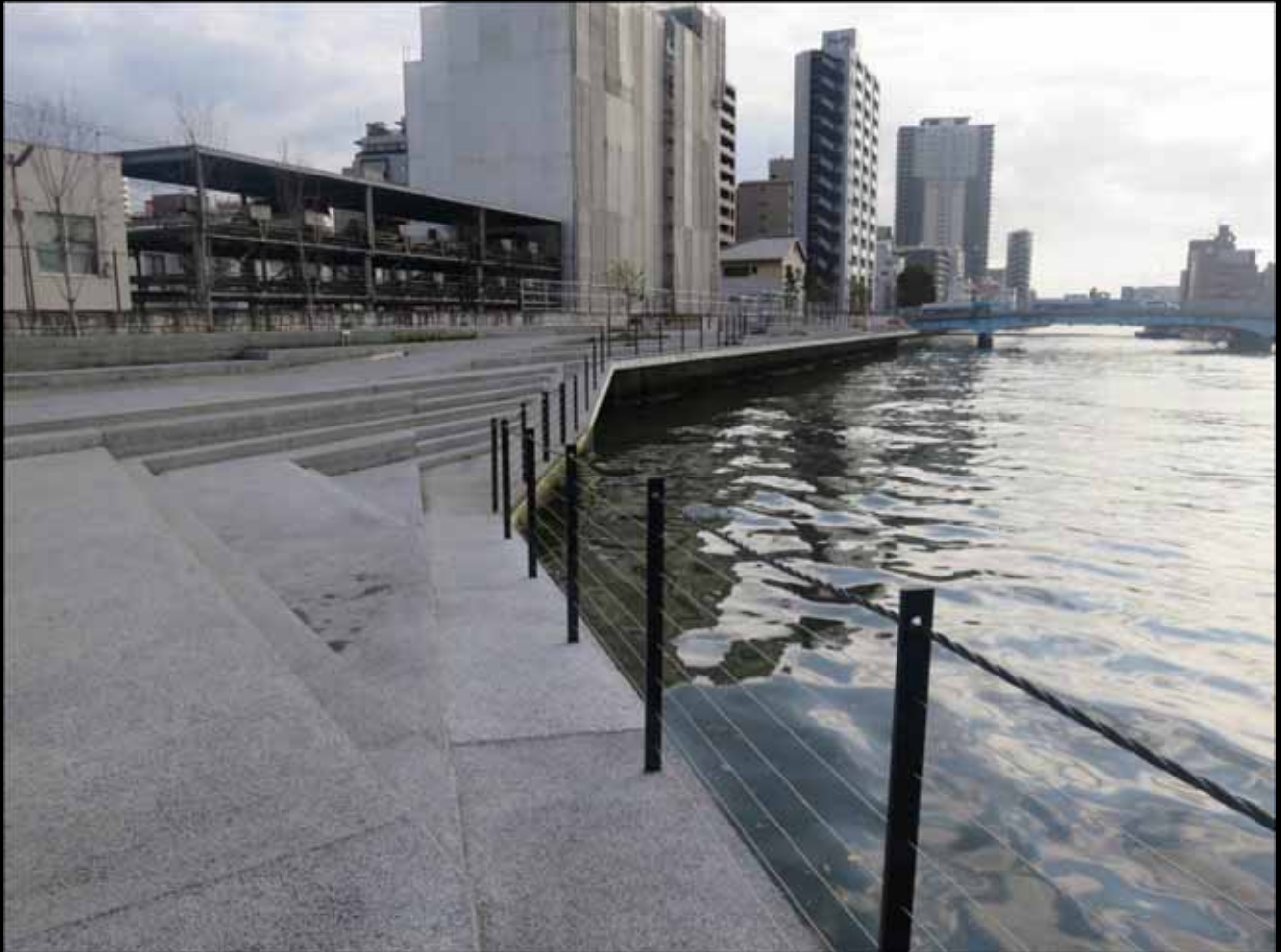


“私”の公共空間：
既存護岸を活かした片持ち梁の上に多様な断面計画を展開している



撮影：2016年12月（大阪府大阪市・木津川遊歩空間）

◆水辺に寄り添って曲がりくねる歩行空間

かつては「材木浜」の物流の要所であり、職住近接の交流拠点であった水辺のやわらかな風景を活かして、まちと人がなだらかに連続して公共空間に「私」の入る隙間をつくりました。

◆「みんなのための場」とは

公共空間が心地よくありつづけるためには、実は抽象的なだれかではなく特定のだれか（＝小さなファンたち）の存在が根底では大切なのではないかと考えている。

（コンペ最優秀作品提案者岩瀬諒子氏より：LANDSCAPE DESIGN 2016.8）

岡村幸二（JRRN会員）